

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立多摩中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0011

東京都多摩市関戸 3-19-1

E-mail daihyo-tama-chu@city.tama.ed.jp

Website http://schit.net/tama/jhtama/

児童生徒数 男子 237名 女子 220名 合計 457名

児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、ユネスコスクールとして各教科・領域において持続発展教育・ESD の視点に立ち、持続可能な社会の担い手となる「2050 年の大人づくり」を目指す。特に、2020 年オリンピック・パラリンピック東京開催を踏まえ、多摩市や日本の伝統・文化を体験・実習させて自国の文化理解を深めるとともに、各教科・領域等で国際理解・国際交流を取り入れた実践を推進し、国際社会で活躍できるグローバルな人材の育成を目指す。

具体的な取組として、第 1 学年では「地域めぐり」、「日本人としてのマナー」、第 2 学年では「江戸・東京探索」、「伝統文化継承会」、第 3 学年では「修学旅行」での体験活動を通して、多摩市や日本の伝統文化を学習させる。

その他の教育活動として、人権・平和・環境・防災・食育に関する活動も持続発展教育・ESD を推進するための取組として位置づけている。

【1 年間の具体的な活動】

① ESD カレンダーの作成

②学年ごとの取組

- 1年生：地域めぐり、日本のマナー、職場訪問、食育
- 2年生：伝統文化継承会、東京めぐり、職場体験、宿泊訓練、食育
- 3年生：修学旅行、先人からのメッセージ、食育・消費者教育

③月ごとの活動内容

- 4月 『桜まつり』（各部活／伝統文化）
自力de弁当（3年／食育）
- 5月 避難所宿泊訓練（2年／防災）、日本赤十字募金（JRC 部他／平和）
- 6月 職場体験5日間（2年／人権）
- 7月 地域めぐり（1年／伝統文化）
『社会を明るくする運動パレード』（各部活／人権・平和）
- 8月 『流しそうめん大会』（有志／伝統文化）
- 9月 聖蹟桜ヶ丘駅前『あいさつ運動』（有志／人権）
自力de弁当（1・2年／食育）
修学旅行（3年／国際理解・伝統文化）
- 11月 日本のマナー（1年／伝統文化）、職場訪問（1年／人権）
『大栗川清掃』（有志／環境）
- 12月 東京めぐり（2年／伝統文化）
- 1月 どんど焼き（有志／伝統文化）
伝統文化継承会（2年／伝統文化）
- 2月 伝統文化継承会（2年／伝統文化）
- 3月 先人からのメッセージ『今を生きる』（3年／平和・人権）

④その他

道徳授業や各領域において国際理解、平和・人権等に関する授業の実施



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 部活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

文部科学省ホームページ、SDGs 関係のホームページや書籍

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

○学校の教育目標を達成するための基本方針

ユネスコスクールとして各教科・領域において持続発展教育・E S Dの視点に立ち、持続可能な社会の担い手となる「2050年の大人づくり」を目指す。特に2020年オリンピック・パラリンピック東京開催を踏まえ、多摩市や日本の伝統・文化を体験・実習させて自国の文化理解を深めるとともに、「国際交流プログラム」を活用した生徒の海外派遣及び海外生徒の本校訪問・交流活動、WEB会議等を通して、国際交流を推進し、国際社会で活躍できるグローバルな人材育成を目指す。

○指導の重点

・総合的な学習の時間

持続発展教育・E S Dを視野に入れた課題を見つけ、自ら課題解決に向けて主体的に取り組む態度を育てる。また、地域の恵まれた自然環境や人材・施設・文化等を積極的に活用し、伝統文化の継承として体験学習を実施する。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

前年度の教育課程届け出の際に提出した「E S Dカレンダー」や学校経営方針に基づき、新年度の学年・学級経営方針や各教科の年間指導計画にユネスコスクールとしての活動を盛り込み、新年度の職員会議、教科部会等で共通理解を図る。また、学期末に活動の振り返りを行い、進捗状況を確認し、次学期の活動に活かす。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学期ごとに、教科部会にて教科内の活動状況を確認し、授業改善プラン等に反映させる。また、年度末に、教員を対象とした学校評価アンケートや生徒・保護者・地域を対象としたアンケートにより、活動の評価・見直し・改善を行う。今年度は、約3割の教員がE S Dの取組を意識した教育活動が展開できなかったと回答しており、年度当初に本市や本校の取組の方向性を明示する必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校だよりやホームページにて、活動の成果を外部へ発信をした。学校公開や聖桜祭では、保護者・地域を対象に、生徒によるポスターセッションや舞台発表により発信をした。成果として、他者と協働する力や進んで地域や社会に貢献しようとする力を養うことができた。また、地域の方には、本校の教育活動を理解していただき、協力体制を構築することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

日本や地域の伝統文化教育では、地域で伝統文化を継承されている方を招聘し、12の講座を開設し、2時間×2日の時間をかけて体験活動を展開した。また、青少年問題協議会や自治会、地元商店会主催の地域行事に参加し、環境や防災に関する意識を醸成させた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

博報財団の「国際交流プログラム」を活用し、生徒の海外派遣及び海外生徒の本校訪問・交流活動、WEB会議等を行う。また、ユネスコスクール・みんなの掲示板にて他校の実践事例を交流するとともに、自校の実践を国内外のユネスコスクールへ発信する。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

国際理解教育を推進する中で、各学年で独立していた行事を、ユネスコスクールの活動を通し、横断的かつ3年間一貫した行事へと再編制をした。1年生では地域の伝統文化学習、2年生では日本や東京の伝統文化学習、3年では世界へと目を向けさせ、国際社会で活躍できるグローバルな人材の育成を目指してきた。このことを、平成26・27年度の本市研究奨励校としての研究テーマに掲げ、発表することができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度の活動を踏襲するとともに、平成30年度は、下記の国際交流プログラムを実施する。

4月：海外生徒13カ国・56名と交流、日本文化の発信
海外生徒20名が本校生徒家庭にホームステイ

7月：本校生徒6名を台湾へ派遣

11月：海外生徒とWEB会議の実施

その他：英語の授業では、フィリピンにいる外国人講師とオンライン英会話授業を実施

2月：多摩市「子どもに未来会議」にて取組の発表、未来へ向けて宣言